

村松地区 村政懇談会

日 時：平成22年6月28日（月） 午後7時～9時

場 所：村松コミュニティセンター 会議室

参 加 者：村執行部（村長，副村長，教育長，理事（兼）企画政策部長，総務部長，福祉部長，経済環境部長，建設水道部長，消防長，教育次長，議会事務局長）

事 務 局（自治推進課長，課長補佐，自治推進課職員3名） 計16名

自治会長（宿区，照沼区，川根区，原子力機構箕輪区）

参加者：宿区…21名，照沼区…12名，川根区…7名，

原子力機構箕輪区…16名，その他…37名 計93名

司会進行：原子力機構箕輪区自治会長

1. 開会
2. 地区自治会長あいさつ（川根区自治会長）
3. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
4. 村長あいさつ及び「平成22年度村政に関する説明」
5. 「自治基本条例の進捗状況」について（自治推進課長）
6. 地区自治会からの事前質問に対する回答
 - ① 平成21年度の事前質問に対する進捗状況の説明
 - ② 平成22年度の事前質問に対する回答
7. 自由質問

○照沼区住民

昨年の懇談会でも聞かせていただきましたが，常陸那珂港の後背地の利用計画について，1年間どのような検討をしてきたのかお伺いします。

関連で，今は常陸那珂港から国道245号線までの道路工事が進んでおりますが，その先の延伸部分の計画について現在どのようになっているのかお聞きかせください。

○理事（兼）企画政策部長

私はこの3月までにどのような検討をしてきたか，あまり承知していませんが，3月議会で私の前任者が答えているのがあり，その議事録は見ました。いずれにしても，はっきり言って議論については進んでいない状況です。10月には国道まで道路ができることもあり，今年度中には関係者を集めて会議を立ち上げなければいけないと考えております。

一般論ですが，今回に限らず，各コミセンの懇談会で話を聞いていると，「ここにこういう土地があるが，この土地をどのようにしていくのか」という話が出てきます。個別に対応していくことも必要なかもしれませんが，やはり総合的にどうするかを考えていく時期にきているのかなと思っております。第5次総合計画において

村松地区 村政懇談会

も、土地環境利用の総合的な検討をしていかなければならないだろうという指摘が出てきております。全体的な議論についても、まだ役場の中または関係者で検討するような組織がないようなので、それをなるべく早く立ち上げるなりして、総合的な議論についても進めていきたいと考えております。

○建設水道部長

通称北線、常陸那珂港山方線の公園線から国道245号線までですが、御存知の方も多いと思いますが、今年の秋に供用開始したいということで、今工事が順調に進んでおります。御質問の国道245号線から笠松までの都市計画決定がされている路線ですが、昨年もお話させていただいたかと思いますが、村としては、県知事に対する要望活動を昨年は7月と11月に行ってきたております。ただ、県としても財政状況がかなり厳しいので、現在のところなかなか難しいという回答は得ております。

○照沼区住民

後背地の利用計画について、おそらくひたちなか市ではある程度進んでいるのではないのでしょうか。それを踏まえても東海村は1年あっても何の検討もされていないというのは、住民としては納得しがたい。それを申し上げておきます。また来年こういう機会があると思いますので、また来年も私は質問をさせていただきますので、1年間たいへんでも御検討いただければと思います。

○原子力機構箕輪区住民

国道245号線の拡張工事について、今後の予定がどうなっているかの教えてください。

○建設水道部長

この件についても先ほどの常陸那珂港山方線と同様に、国や県、地元選出の国会議員等に毎年要望をしております。経過ですが、昨年11月4日と6日に地域説明会を行っています。これは阿漕ヶ浦から豊岡までとサイクル工学研究所から阿漕ヶ浦公園入口までの2区間に分けて説明会を行っています。

その後地権者の了解を得て、用地測量、家屋調査、補償等の調査を実施しており、まもなく終えようとしております。秋ごろから各地権者との個別の交渉に入りたいとのことです。契約ができしだい、優先的にはサイクル工学研究所前の交差点と原子力科学研究所の交差点について、渋滞緩和のための右折帯を作ったりする作業に入りたいということです。

予算については、今年度は予算で3億円（昨年度繰越分を含む）を計上しており、この中でこれから順次作業を進めていくこととしております。

○川根区自治会長

川根地区の下水道の整備のことでお聞きしますが、確かにあの地区は川があって地盤も軟弱なので、下水道の工事を行うのはなかなか難しいということは素人目にもわかるのです。先ほどの説明だと合併浄化槽とか考えているとのことで、平成22年度

村松地区 村政懇談会

中に説明会を行うとの話がありましたたが、それはだいたいいつごろになるのか。

インフラの整備に関しては川根地区だけが取り残されているように思える。工法が難しく、お金もかかることはわかる。しかし住民としてはある程度の目途というか、いつごろやってもらえるのか、また説明会はいつごろになるのでしょうか。

○建設水道部長

市町村設置型の合併浄化槽で、現在のところ処理を考えているのは川根地区と向竹瓦地区です。本来であれば年内までとか年明けごろとかお話できればいいのですが、これについては担当課と相談しながら、具体的な日取りについては自治会長さんと調整させていただきたいと思います。年度内にやることを目標に進めています。

○照沼区住民

選挙投票日の締め切り時間ですが、今は午後8時までやっていますが、午後6時で締め切ってもいいのではないのでしょうか。期日前投票が充実してきているので、投票日に午後6時以降じゃないと行けないという人は、期日前に行けばほとんどカバーできるのではないかと思います。午後6時以降に来る人もいるという意見もありますが、それは8時までやっているから来るのであって、6時で締め切ればほとんど行かないと思う。だんだん予算が切迫してきている折、6時で締め切ったほうがよいと思います。投票率もほとんど変わらないと思いますが、いかがでしょうか。

○総務部長

何年か前に住民アンケートをとりまして、その結果午後8時までということのようです。ただ、国政選挙などでは8時までやらないと補助金のカットもあるようです。村単独の選挙、村長選挙と村議会議員選挙であれば、6時までとするとある程度予算が削減できます。

また、開票時間ですが、今は8時に締め切って9時から開票ですが、国政選挙などでは仮に6時に締め切ったとしても8時までには開票することができません。そのような制約もあります。締め切り時間を変更するにはいろいろと調整しなくてはいいけないと思います。

○照沼区住民

住民の意見を聞いたらそうなると思いますけど、予算がないと言っておきながらこういうところでお金を使っている。そんなことしても投票率に変化はないでしょう。できるところから6時締切りにしたらどうか。国に対しても啓蒙するくらいでないとい

○宿区住民

地球温暖化対策など環境政策についてお伺いします。村では地球温暖化対策については、地域協議会とか、環境政策課が中心になって取り組んでいると思いますが、その活動内容がいま一つ理解されていないような気がします。具体的な取り組みと今後の計画についてお聞きしたいといいたいところですが、先ほど村長からもあちこちに環境対策について述べられていて非常に幅が広い。そこで焦点を絞って、つい1月か

村松地区 村政懇談会

2月か前に抜き取りで調査をしましたよね？ 電気、ガス、ガソリンでしょうか。私も対象者になったのですが、1年間分調べるのはけっこう大変でしたが、私としてはやった意味があったなと。「えっ、こんなに使っているの？」と。これは村全体ではけっこうな数が出てきているでしょうから、それを今後どのように活用していくのか、その辺をお聞きしたい。

○経済環境部長

資料については今手元にないので、後で自治会に配布させていただきたいと思います。あとどのように活用していくのかということについても、今ここで答えできるようなデータがありません。御質問の趣旨はわかりましたので、後でデータと一緒に届けさせていただきたいと思います。

○村長

温暖化対策につきましては、協議会でまとめてやっております。このような活動を行うことで着実に（ガス排出量は）減っているのです。東海村の家庭からの炭酸ガス排出量は最初年間約25万トンでしたが、今は22万トンくらいです。環境意識が反映されているのかなと思います。

もう一つ、役場がエコオフィスプランということで削減に取り組んでいます。平成17年度を基準年として、毎年削減に取り組んでいます。村の公共施設が約40箇所ありますが、（ガス排出量のうち）電気が約80%くらいなのです。あとはガソリン、重油、プロパンガスとかあります。清掃センターでは軽油を使っていますがこれも減らしています。今の水準では平成17年度から見ると約25%削減となっています。ちなみに皆様方の御協力のお陰で、清掃センターに持ち込まれるゴミの量は35%くらい減っております。

これらの取り組みがよく見えないということで、この点については今後経済環境部長に考えてもらうことにします。このような答弁でお許しいただきたいと思います。

○原子力機構箕輪区住民

村長説明要旨の2ページに、防犯灯やカーブミラー等の交通安全対策費が書かれていますが、この設置基準とか優先順位というのがあれば教えていただきたい。なぜかという、たまに夜に歩くことがあるが、暗いところはいつまでも暗くて、明るいところとの差がはっきりしている。暗いところはいつまでも暗いままなのかという気持ちがあるので、教えていただきたい。

○経済環境部長

防犯灯とカーブミラーの設置基準ということですが、防犯灯は畑の作物に影響するところもあります。またカーブミラーは道路側溝の内側よりも外側の民地に立てるのが安全だということがあります。設置基準と呼ぶほどのものはないのですが、あくまでもその地区で一番危ないところ、もしくは設置してほしいところ、そういうのを自治会長さんに申請していただいております。その際には設置場所の地権者の協力を得

村松地区 村政懇談会

て民地に立ててもよいなどと打合せをしています。そういうことで、地権者の協力をいただきながら、危険なところや暗いところに設置しています。

先ほど「暗いところはいつまでも暗い」というお話がありましたが、それは民家があるところなのかどうか、どちらかなと思いながら聞いておりましたが、民家があってここが暗いねと、そういう形であれば自治会長さんと相談いただいて、その際には「この場所が暗くて、ここに明かりをつけることで地権者の了解を頂いたよ」というような形で御相談いただければ、こちらとしても動きやすいです。ということで、自治会長さんを通じて上げていただいたものは優先して設置しているところです。

○照沼区住民

学童保育についてお伺いしたい。照沼小学校の改築が始まるころですが、白方小学校を見学したときに、学童保育の建物が校舎と別になっています。大規模校であればこれもやむを得ないかと思いますが、照沼小のような小規模校であれば、別棟で学童保育の建物を建てるのではなく、学校の中にあつたほうが建設費も抑えられるのではないかと。また保護者としても、学童が別棟で学校の敷地外になると不審者への対応においても心配になるのではないかと思います。

学童の費用は保護者の負担になっていると思いますが、そのあたり、例えば水道や電気であれば別メーターにすれば対応できると思います。そのへんの考えについてお聞かせいただきたい。

○教育長

学童保育については村長の政策もあり、村内の各小学校に設置することとしておりますが、現在校舎の中で学童保育を行っているのは照沼小だけだと思います。

学童保育の子どもたちにとってのいい面は、異年齢集団で子どもたちを中心に生活ができるということです。今このような場所は学校外ではありません。遊び場もありませんし、学校外でそのような集団をつくることもありませんので、そのようなことでの学び場としてはいいと思っております。

学校敷地内に学童の施設を作ることに私は大いに賛成です。ただ、学校建築との関係で、学校の中に施設を作るとなると、学校建築そのものを変えていかなければならないところもありますので、学校建築の部署で検討する必要があると思います。

○照沼区住民

学童保育施設を学校の敷地内につくることは。

○教育長

どの小学校も敷地内に作っていますので、照沼小においても具体的な場所はまだわかりませんが、学校の敷地内には作るつもりです。

○照沼区住民

白方小を見ますと、職員室から学童保育の施設に目が届くようになっていっていると思います。照沼小でもできるだけ職員室から目の届く範囲内で学童保育施設を設置するよ

村松地区 村政懇談会

うにしてもらいたいと思います。これは要望です。

○教育長

今後、福祉部と一緒に検討していきたいと思います。

○照沼区住民

新川をきれいにするという（事前質問）、これは学区でやることだと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

これに関連して、新川に鮭が遡上するというので、河口はきれいに整備されていると思うのですが、それに対して住民がその先にある火力発電所の公園とかグラウンドを利用するにも利用できないような、入口がないのが非常に寂しい。大強度陽子加速器施設の工事が終わったので、新川にサイクル工学研究所の道路がありますので、その道路を広げて、地域の人たちがグラウンドを利用したり、鮭の遡上を見たりできるような場所を作っていただけないか。（火力発電所に）あれだけの施設がありながら、地域の人たちが利用するための入口ができない。ぜひ道路をつくって新川沿いを歩きながら公園、グラウンドに行けるようにしてもらいたい。

○村長

全く私もそのように思います。J-PARCの工事のときに新川に仮橋が作られましたが、その先に東電の公園あるので、仮橋を使うか、それともサイクル工学研究所の道路を使うかということで、考えたことはありました。その後、仮橋を残してくれと原子力機構側に要望を出していたのですが、仮の橋だから残せないとのことでそれはアウトになりました。その後、この点についての話し合いは出来ておりません。また東電側の土地が村の土地でないという問題があります。今後も検討していきたいと思いますが、まだできるとも何とも言えないです。東電側の土地も関係してきますので。

あと一つだけ言っておきますが、あそこの公園の木がだいぶ立派になってきました。それなりの自然になってきましたので、皆さん方も出かけて、楽しんでいただきたいと思います。

○照沼区住民

村長、申し訳ないですけど、私たちこの地域で火力発電所ができ、サイクル機構ができ、いろんな形でこの白砂青松といわれた自然を壊してきたという経緯があります。自分たちが海まで行った道路が、下手したら海に行けないような状態になっているのが現実なのです。せっかく公園ができ、グラウンドができたのですから、それは地域の人たちにぜひ使ってくださいということで作ったのだと思います。ぜひ村道として公園に行ける道路をつくっていただきたいと思います。

○照沼区住民

企画政策部長にお伺いしますが、原子力センター懇談会についてですが、村長がおっしゃったように、持続する社会とか循環型社会とか、経済発展ばかりではなくこう

村松地区 村政懇談会

いう社会にしたいと、それはそうですが、現在の生活水準を維持しながらそこに軟着するのにはむずかしいながらもそれをやらなくてはいけないと思いますが、この東海村原子力センター懇談会はこれにかなり寄与できるのではないかと思います。ただ、今原子力界はプロジェクトというか、何をやるかというのを掴んでいないような状況だと思います。この有識者会議のメンバー、トップクラスの人材が入っているのですが、これからのプロジェクトは、東海村にソフト関係を願っているのでしょうか、文科省関係の。ハードの経産省ではなくて。プロジェクトはどういうのがあるのでしょうか。

○理事（兼）企画政策部長

これからの議論次第になると思います。ヒントになるような話は村長から、あるいは委員の先生からも出てきていると思います。今のお話のなかで、原子力界は何をしいのかかわからないというような話がありましたが、一方で私はいろいろ聞いていますと、原子力界の人は何をやるべきかということはなんとなくわかっているような気がします。ただ、実際には電力会社も例えば人材の問題にすごく困っているという話は聞いていますが、自分たちだけでうまく解決できていないとか、昔は原子力はやれば儲かるという状況だったようですが、今は電力の自由化とかで、やれば儲かるというような方程式が成り立たなくなってきましたから、人材にお金をかけられなくなっているようなこともあったりするようです。本当にやらなくてはいけないことはいくつかあるでしょう。電力会社や原子力機構とざくばらんに話すといろいろ出てきます。しかし、実際はお金の問題やいろいろな制約でうまくいっていないような印象を持っています。

一方で東海村からの立場からすると、東海村らしさを活かすというのが根幹にあると思います。東海村らしさって一体何だと言ったときに、戦後研究開発のパイオニアということでやってきましたし、一方で安全、セキュリティといった、原子力は野放図に進めていっていいということではないことも肌身でわかっていると。では安全・セキュリティ面について技術あるいは人材面での発信を日本の中でできている地域があったかということ、あるいは東海村がそういうことをできていたかということ、必ずしも十分ではなかっただろうと私は思いますし、この前の第1回有識者会議での議論を聞いていてもそのように思いました。会議で今議論になっているのは、新しい原子力科学というのが出てきましたので、それを核とした科学文化みたいなものは進めていこうという機運があります。併せてやはり安全とかセキュリティといった、安全をやるためには当然に人が技術や倫理をもって行動できなくてはいけないわけで、そういった技術者を育てていかなくてはいけない。そういった意味で人材育成のハブという言葉をもとにたかが使っていましたが、日本の中核みたいなものを東海村でやってもらえたら、もしくはできる実力があるし、そういうのをやったらいいのだろうという議論がされています。そういった議論をもう少し論点を整理し、いろんな方のご意見を

村松地区 村政懇談会

踏まえながら、方向性を出していきたいと考えております。

○宿区住民

大強度陽子加速器の設置では、宿区はずいぶん苦労しました。その一つには、先祖が植えた松林を伐採することが大きく響いていたと思うのですが。村民の森構想が実際に動き始めたのですよね？ それで、残すべき松林を伐採したバーターといっているんですが、天神山を整備して本当の自然を残したい。平原はあのおりで動物の行き場がなくて、天神山に移ってきているのですね。そういう実態は日々見ているのでよくわかるのです。村長もずいぶん未完の山とも言っていますし、自然保護についてはこれからの課題だと言っておりますが、これはできるだけ早く手を打たないと。一度手が入ってしまうともう元には戻りません。私は山をやっていますから、そういうところはいたるところで見えております。海外のように地域が広大であれば、リハビリテーションと称して閉鎖してしまうという手もありますが、日本ではそれは難しいですね。そういったこともあって、ぜひモデル地区として、歴史と文化と自然がマッチした地域としてこの地区を……。例えば、川根の前の田んぼをみると、船着場がまだ残っておりますし、いろいろ整備していけば、具体的にはうまく言えませんが、知恵を持ち寄ればいろいろできるのではないかと。モデル地区として構想を立ててもらえるといいなと。そしてできるだけ早く確保しておかないと、もう自然がなくなってしまうので、ここ何年かが勝負なのかなという感じがします。

あともうひとつ、パンフレットに天神山の城跡が紹介されているので、外国人の方が何人か来ています。「どこにあるのですか」と聞かれて、私が「ここの後ろです」と答えても、入口の案内も何もなし。どこから入るのかわからない。パンフレットに書いておくのなら、やっていることの起承転結はきちんとやっておかねばならないのではないのでしょうか。

全体の構想の一つとして取り上げるということよりも、まずはモデルケースとして取り組んでみる気はありませんか。

○宿区自治会長

まず私から説明します。実は去年の10月ごろから、天神山に自然の遊歩道を作ろうとか、そういう話が内々にはあります。地権者もあそこは3人いますけど、その方にももう了解は得ています。それを例えば宿区単独でやるのか、地区自治会でやるのか、そのへんの構想を練っている状況で、まだはっきりとした方向性ができていませんのでお示しすることはできませんが、そういうことを村松地区自治会として内々には考えているところです。

○村長

天神山または真崎城の跡地について、検討していることは今自治会長からお話があったとおりです。村としても天神山あの辺りを買収していきたいと。真崎の古墳群の買収を第1号として始めました。それから前谷津という自然生態系が豊富なところを

村松地区 村政懇談会

買収する。これは今年度に進めていくことにしています。その次に天神山・真崎城ということで話の俎上にはのぼっております。

東海村50周年のときに緑の基金をつくりまして、それには毎年須和間霊園の永代使用料収入を積み立てており、毎年4～5千万円を積み立てております。その資金を有効に使っていかうとしております。

天神山、真崎城、細浦、大山下、真崎浦あたりの景観というのは、貴重な村の資源です。一時は日本の水田百選にも選ばれるという、貴重な景色ですので、ぜひ残していけるような努力をしていきたいと思っております。御協力をお願いします。

○照沼区住民

防災組織づくりについてお伺いしたいのですが、先ほど訓練で自家用車で避難をしたという話がありました。原子力災害でも自然災害でも、昼に起きるか夜に起きるか分からないですね。もし昼間起きたら、若手がみんな勤めに出ていると、高齢者はどうやって避難するのかと。私は自主防災組織があればある程度避難ができるのではないかと考えておりますので、そろそろ東海村でも本腰を入れて自主防災組織を作って、災害があったら自分の命、家族の命、自分の財産を守って、そのあと隣近所にお年寄りがいたら一緒に助け合うと。それを各個人がばらばらにやるのではなくて、組織のなかでやっていくのがいいのではないかと考えています。ひたちなか市では82自治会があって82ともあるのだそうです。今東海村で自主防災組織ができている自治会はいくつあるのか。それといつごろまでに全ての自治会に組織を作るつもりかをお聞きします。

○消防長

自主防災組織は現在6団体ございます。各単位自治会または各地区自治会の安全安心部会、そこに自主防災組織の設置をお願いしている状況です。

○照沼区住民

今の話では、組織は地区自治会に作るということでしょうか。私は単位自治会に作れば手身近に高齢者の避難ができるのではと考えていますので、作るのであれば単位自治会ごとに作るべきだと思います。

○消防長

単位自治会、それから学区自治会も設置をお願いしております。

○照沼区住民

交通弱者対策を村でどう考えているのかお聞きします。今度茨城東病院から東海駅までのバス路線が廃止されます。今はたぶん朝と晩しか利用者はいないと思いますけど、通学の子どもたち、それから病院の通院者、こういう人たちが廃止によって移動に困難を極めるということになるのではないかと。

村では「デマンドタクシーがあるよ」という話になるのではないかと考えていますが、デマンドは時間から時間までが決められております（利用時間が限定されるという意

村松地区 村政懇談会

味か)。子どもの立場からすると、おそらく1回300円のタクシー代を負担してまで利用することはない、そして車がある家庭ばかりでもないということで、村として朝と晩だけでも巡回バス、これはそっちこっち回るということではなく、今のバス路線を引き継いだものを運行する、こういうことも村は考えるべきではないか。他の自治体をみても、バス路線が廃止されるときは行政が補助金を出して存続をさせているというのがあります。村の考えをお聞かせください。

○理事(兼)企画政策部長

地域公共交通の問題は他の懇談会でも出ていますし、議会でも出ています。茨城交通から茨城東病院の路線の廃止について、昨年3月に役場に情報提供がありまして、それを受けて4月に茨城東病院と話し合いをもっています。残念ながら茨城東病院からは、患者の多くは重い呼吸器疾患があって、基本的に付き添いなので、バスの廃止はあまり影響ないとの見解でした。通勤者は何人かいるようでしたが、通勤に関しては自分たちでなんとかするという回答でした。また、JAEAにも話をしましたが、残念ながら協力的な回答はありませんでした。通学については、具体的なデータはないのでわかりません。(あとで「通学者は乗っていない」という報告あり。)

この話があった段階で茨城東病院とかいろいろなところと、また当然茨城交通とも話をしまして、便数が減っても何とか存続できないものか議論したのですが、残念ながらできなかったという状況です。

今、話がありましたが、高齢者を始め車が運転できない人には、100%とはいかないかもしれませんが、何とか足を提供していくことは必要だろうと思っていて、それでデマンドをやっているわけです。これは福祉バスを廃止した際にドアツードアのほうがいいというアンケート結果を受けたものです。ですので、タクシーの台数を増やしたり、数年前から4時半発の便をつくったりして、デマンドの充実を進めていますし、さらなるデマンドの改善はやっていきたいと思っています。これ以外については一切やらないというわけではないですが、デマンドの状況とか、茨交バスの廃止の影響とかをみながら役場内または自治会の皆様と協議をしていきたいと思っています。

○照沼区住民

一言、デマンドタクシーの時間延長をお願いしたいです。これは意見です。

○照沼区住民

いつも言っておりますが、村松が広い。真崎とか押延とかも入っている。真崎は今700軒とかある。真崎は真崎として、押延は押延として、村松は虚空蔵堂のあるところを村松とするのがいいのではないかと。

地区自治会は村松地区と称しているが、村松小学校は村松地区自治会には入らないのだが、知らない人は勘違いする。真崎という地名を設けて、村松小学校を真崎小学校とすればつじつまが合うと思いますが。

村松地区 村政懇談会

○教育長

村松小学校の名の由来について調べてきました。昭和37年に旧村松小を白方小と照沼小学校に分離しました。その後昭和55年に白方小から分離して真崎地区に小学校を新設することになって、真崎地区新設校名委員会というのを教育委員会内につくりました。委員数は15人です。メンバーの記録は見つかりませんでした。おそろく今でいう自治会長さんとかPTAの役員さんとかが入っていたと思います。

昭和55年11月に結論を出すことになって投票したところ、真崎小学校という意見と村松小学校という意見が半々に割れて7票対7票、白票が1と。最終的に委員会ではまとまらず、教育委員会で決めてくれとなったそうです。その1ヵ月後、教育委員会は学校名を村松小学校に決定しました。その理由は、大字の村松をとったということです。

そういうことで、30年前に委員会を設けて決定した校名ですので、これを変えるとなると、合理的な理由がない限り難しいと思われます。そうでないとコロコロ名前を変えることになってしまいます。また既にもう2千名近い卒業生がおります。その方たちの思いもありますので、変えることは難しいと思います。

○照沼区住民

学校の件はわかりました。わかりましたが、せめて住所名は、もう豊白とかできていますので、真崎とか押延とかを住所名にすることはできるのではないかと。村松と言われてもよく見ると押延だったりして、その辺が不都合だと思います。

8. 閉会